

かがやき

No.38(2018.2.15 刊行)、広報委員会編集

茨城県立図書館発行
禁複製転載©広報委員会

ボランティア研修会について

普及課 羽石康弘

ボランティア活動とは、一般的に、自発的な意思に基づき、他人や社会に貢献する行為のことを意味している。原則として、自主性（主体性）、社会性（連帯性）、無償性（無給性）が挙げられる。

人それぞれ、ボランティア活動のとらえ方は、様々である。ボランティアは「こうあるべき」ということは、かえって、ボランティア活動をしていこうという人達の敷居を高くしてしまう。人それぞれの考え方、生き方、価値観が違うように、ボランティア活動のとらえ方も多様である。自分で進んで行う活動のため、当然、楽しめ、誰でも参加できる。また、同じ活動を行う者同士のグループもでき、長く続けられる。

ひと昔前では、一般的にボランティア活動は、様々な施設での活動と考えられていたが、現在、活動範囲は、地域全体に広がっている。内容も高齢者や障害者

の支援は、もちろん、移動支援・スポーツ活動・国際協力など、非常に多岐にわたっている。

分かりやすく言えば、ボランティア活動とは自分の意思で率先して行う活動と言える。広い視野で見れば、日頃の近所付き合いから、社会が抱えている問題の解決まで、ボランティア活動と言える。

そのことを踏まえ、県立図書館ボランティアの研修会に関して考えてみた。県立図書館ボランティアの研修は、「ボランティア活動に関する幅広い知識を身につけるとともに、活動意欲を高め資質の向上を図る」ことを目的としている。普

H14年度から開催している県立図書館ボランティア研修会（H22年度なし）の内容は、以下のとおりである。

- ・図書館ボランティア論 5回
- ・ボランティア論 4回
- ・図書館論、図書修理の実技、障害者サービス、活動報告会、情報交換会、生き方 各1回

大きく分類すると、図書館に関する内容とボランティアに関する内容が多く、当然ながら、県立図書館ボランティアとしての資質向上に狙いが向けられている。情報交換会や活動報告会では、多くのボランティア分野が、日頃からそれぞれ工夫を凝らし、自主的な研修を積んでおり、ボランティアの熱意が図書館運営の一躍を担っていることが実感できた研修会のようなものである。H28年度は、障害者差別解消法が施行されたこともあり、

「県立図書館の障害者サービスについて」というテーマで開催した。現在、対面朗読ボランティアと録音図書製作ボラ

ンティアが、読書をするのが困難な人への活動をしているが、全体で、県立図書館として、どのような障害者サービスをしているのか、ボランティアをするうえで気をつけていかなければならないことなどを確認することができた。

また、図書館でのボランティア活動以外に「生き方」についてのものが1回あった。「豊かな生き方」のヒントとなる有意義な研修会となっていたようである。

研修会の参加人数の推移は、H15年度のみが半数を超えているが、その他の年度は、10-20%であった。ボランティア規定にも、参加が義務づけられているため、ボランティアのニーズに合わせた研修会を計画していかなければならないであろう。

H29年度は、協議会時に話題に出た研修会を計画している。内容は、災害時において、正しい緊急避難の方法を身につけ、冷静・迅速に、的確な行動がとれるようにするため、分野ごとに活動場所から避難する方法を確認したい。

訓練を兼ねた研修会である。声をかけあい、大勢に参加していただけるようにしていきたい。

これから県立図書館の目指す図書館像を実現していくためにも、ボランティアの協力は欠かすことのできないものとなっている。多様化する図書館サービスへのニーズに応えるため、ボランティアの皆様には、今後とも、ご協力願いたい。

H29 年度ボランティア研修会実施報告 －避難訓練－

普及課 羽石康弘

H30年1月31日、H29年度の避難訓練を実施した。

水戸市消防本部の指導の下、50人の図書館職員、21人のボランティアが参加した。

今回は「地下機械室から出火」という想定で訓練を実施した。

職員は初期消火・通報・避難誘導・消火訓練を行った。ボランティアの皆様には避難を実際に経験していただいた。

13:10 より、非常ベル作動のため、「火事です、火事です、地下で火災が発生しました。落ち着いて避難してください」と館内自動放送が二回流れた。同時に、企画管理課に発生場所とその状況が電話で通報された。

この段階では、各職員は、自動放送が流れても誤報なども考えられるためすぐには行動せず、館内アナウンスが流れるまで待機した。利用者へも待機するよう促した。

連絡を受けた職員は現場確認をし、その間、「ただ今、係員が確認しておりますので、次の放送が入るまで、その場でお待ちください」というアナウンスが入る。煙がひどい状況の現場を確認した職員より報告が入る。

自衛消防隊長へ、「地下1階機械室が火事です」と直ちに伝達し、自衛消防活動を開始するよう指示した。自衛消防訓練の本部を図書館駐車場に設置した。

実施手順

以下、1)-5)に、実施手順を示す。

1) 通報連絡班長に対し、館内アナウンス・消防署への通報を指示した。班長は、班員に、消防署への通報を指示し、13:16、館内アナウンスを2回行った。

「訓練、訓練、図書館内の皆様にお知らせします。地下1階の機械室で火災が発生しました。係員の誘導に従い、あわてずに屋外に避難してください。これは訓練です、これは訓練です」と館内アナウンスを行った。

2) 消火班長に初期消火活動を指示した(初期消火を行う場合、火災現場へ向かう途中にある消火器を各自持参)。「火事だ！ 火事だ！」と大声で叫びながら消火活動(約3分)を行った。班長は、消火できずに煙がひどくなっていることから危険と判断し、直ちに、消火活動を中止して「避難！」と指示した。

3) 避難救護隊長に対し、来館者の避難誘導とけが人などが出た場合の救護を指示した。避難誘導班員は、館内アナウンス終了後、利用者を速やかに屋外へ避難誘導した。来館者には、「あわてないで行動してください、避難口はこちらです(手を目印として高く上げる)」と言いながら発生する煙を想定し口をハンカチなどで覆い、低い体勢で、来館者をそれぞれの避難口へ誘導した。この段階で、それぞれ館内にいるボランティアの避難誘導も始まる。救護班員は、館内アナウンス終了後、けが人などがいないかどうか、館内を巡視した。けが人を発見した場合には救出にあたる各避難誘導班員は、避難救護隊長及び本部隊長に

報告するよう指示した。

4) 搬出防護隊長に対し、防火戸などの作動確認、逃げ遅れている者がいないか確認、重要書類の搬出・管理を指示した。防護措置班長に対し、防火戸・防火シャッターの閉鎖確認及び各階に逃げ遅れた者がいないかの確認を指示した。防護措置班長は防護措置班員とそれぞれ分担し、各階の確認などを行い、その状況を取りまとめ、防護措置班員に対し、搬出防護隊長及び本部隊長に報告するよう指示した。

5) 搬出防護隊長は、搬出班長に対し非常持出物品(重要書類)の搬出を指示した。搬出防護班長は、搬出防護班員とともに3階事務室内の非常持出物品を搬出し、その監視及び管理にあたった。また、搬出防護班員は、レファレンス事務室内の非常持出物品を搬出し、その監視及び管理にあたった。搬出防護班長はその状況を取りまとめ、搬出防護班員に搬出防護隊長及び本部隊長に報告するよう指示した。

自衛消防隊長は、各連絡員から受けた状況について、総括指揮者に対し、その都度、報告した。13:25の最後の報告の際、「以上で消防訓練完了」の報告を行った。13:10の非常ベル作動、13:16の避難開始アナウンス、13:25避難終了となった。その後、水消火器を使用して消火器操作訓練を行った。終わりに、水戸市消防本部職員からの講評を頂いた。

参加ボランティアの感想

ボランティアの皆様は、普段の作業をしている状況での避難を想定したため、それぞれの活動場所からの避難を行った。初め

てということもあり、今回ボランティアの皆様には、安全第一に避難することを目的として行っていただいた。

以下はボランティアの皆様からいただいた感想である。

- ・避難経路が確認できて良かった。
- ・今まで知らない避難経路を知ることができて良かった。
- ・実際に訓練ができたので避難経路が理解できた。
- ・図書館の建物の構造が理解できて良かった。
- ・非常口を初めて通った。
- ・普段訓練をしたことがないため、あらためて勉強になった。
- ・訓練しないと分からないこともある。
- ・ボランティアの参加は良かった。
- ・サイレンの音やアナウンスを聞くだけでも良い経験になった。
- ・火災の際の放送・誘導など経験できて良かった。
- ・消火器の扱い方も分かった。
- ・実際は職員を待っての避難は難しい。
- ・階段のある位置や方向が分からない。
- ・四角い建物なのに迷路みたい。

また、次のような指摘もあり、県立図書館としても、速やかに改善できるところは改善していかなければならないだろう。

- ・避難経路もいろいろあり、把握することが難しい。
- ・ボランティア室に避難経路の貼紙をしたらどうか。
- ・ボランティアの参加人数が少ない。

ボランティアの皆様の自己評価の結果をみても、おおむね良い結果であった。今後、ボランティアの皆様の意見を活かして

いきたい。

編集後記

本号は「H29年度ボランティア研修会 / 火災時避難訓練」の実施報告です。ボランティアに対するこの種の訓練は、最初であるため、新規性があり、報告に値します。

広報委員会は、問題把握のため、実施2ヵ月前、館内の消火器・消火栓・スプリンクラーの設置位置の確認をしました。消火栓のうち、一箇所のみ、倉庫ドアに表示がなく、設置場所が分かりにくくなっていました。改善した方が良いでしょう。

ボランティア室には、可燃物が多く保管されているにもかかわらず、消火器が設置されていませんでした。ボランティア活動の成果や引き継ぎ事項などの重要書類ファイルの搬出表示もありませんでした。いずれも改善した方が良いでしょう。

通信紙の編集を担当してから3年が過ぎました。通信紙の編集方針と発行目的を明確にし(No.31、33)、掲載内容の高度化(「オリジナリティ」「文章表現力」「論理構成力」)を図りました(No.27、30)。

今後は、「年次報告」(No.25、ただし、No.31に掲載した投稿規定を遵守)と「ボランティア体験報告」(No.30、体験や成果を次世代に生かす)を中心とし、ボランティアの質的向上に資する内容とします。ボランティア・メーリングリスト(現在、登録者数53人、今後、全員登録)を利用し、ボランティア各自への通信紙の送信など、読者数(現在、推定53人、約40%)を増やす工夫もします(目標100人、約80%)。広報委員会の独立性も高めます。

【補足】担当通信紙

年度	No	HP 掲載	備考
H27	25	○	再発行優先版
H27	26	○	再発行優先版
H27	27	○	モデル版
H27	28		テスト版
H27	29		テスト版
H28	30	○	モデル版
H28	31	○	モデル版
H28	32	作成中	データ収集中 特性分析 (多変数解析)
H28	33	○	モデル版
H28	34	手続き待ち	モデル版
H29	35		テスト版
H29	36	作成中	
H29	37	作成中	
H29	38	○	モデル版
H30	39	計画中	特集年次報告

注1)「再発行優先版」とは内容よりも再発行。

注2)「モデル版」とは標準化できる良い内容。

注3)「テスト版」とは意見を聞くための内容。

桜井 淳